

有馬 先の参院選で与野党は逆転が起こりました。「衆議院のカリココピー」と揶揄されてきた参議院が、衆議院で可決された法案を否決する。「ねじれ国会」のスタートです。与野党の対立で国会が行き詰まり早期解散、総選挙となるのか。その後、大連立、政界再編が実現するのか。

先が読めない原因のひとつに、自民党と民主党の立ち位置の違いが分かたづらぬことがあるかと思えます。正直に言うところ、有権者は両党の中身がどう変わらぬかとウソザリしている。お集まりのみなさんは、それぞれの党内で反主流とみなされているでしょうか（笑）。党に拘束されない立場で率直に



ご意見をいただければと思います。

原口 安倍晋三政権が発足してからの1年間、閣議に次ぐ閣議で、入閣した友人の議員に、もう3回も「おめでとうございます」と言っているんですよ（笑）。官房長官の頃、「民主党のガキども」と言っていた福田康夫さんが、首相になったら「一緒に話し合いました」とタリシテしてくるんですよからね。本筋に在野町の一寸先は闇です。

河野 正直、ねじれも悪くないと思っ

た。油断が弊害なんです。これまで僕らが防衛省に説明を求めている、「機密事項」の一点張りで回答しませんでした。「たしかにオペレーションは機密事項に該当するが、半年前のことはもはや機密ではない。現にアメリカは情報公開をしているじゃないか」と進及しても、なかなか。それが、国会がおじれた途端、どんどん情報が出てくるんですよ。

有馬 2003年2月の海上自衛隊の補給艦による米艦船への給油活動に関

年末解散か、政界再編か

河野太郎 & 後藤田正純

どうする「ねじれ国会」

原口一博&松原仁

司会／有馬晴海

（原口一博、松原仁）

して、福田首相自身が官邸長官時代に、給油した量は20万ガロンと発表しました。ところが、実際は80万ガロンでした。

首相は誤りだったと謝罪しましたが、情報開示に大きな問題を減しました。

山口 しかも、給油した相手は空軍「キティホーク」となっていました。アイーダ艦「ポール・ハイムトン」に給油されていたことまで分かりました。

情報を開示して、国民に情報を求めなければいけないのに隠蔽する。日本の自衛隊だけどうして無償で給油しているのか。その油は誰からもらっているのか。アメリカのあるホームベジをみると、日本の自衛隊が顧客になっている。ということは、アメリカから市販の何億かの油を買って、それを米軍に給油しているのではないのか。

と、次々に考えなくてはならないことが出てくる。

おじれの橋中にある、民主党と自民党の違いは、民主党は国民の知る権利の側に立つということです。国会が十分な情報を得たらずに判断することが一番まずい。なぜ先のイラク戦争のようは無謀な戦争を支持し、誰がコントロールしていたのか。情報開示がなければ、それを正確に把握できなくなる。このままでは、また再び同じ過ちを犯すのです。

松原 かつて藤川博昭さんが熊本県知事を辞めるとき、「藤川十年」と言いました。長期にわたって一党が権力を保持すれば必ず腐敗する。腐敗した権

力は、情報を外に流さず、内部だけですべての情報を合わせようとする。いまや、官僚にお任せの自動運転で国の方向付けがなされている状態です。官僚は、自民党に時どき脅迫するだけでいい。官僚至上主義を減たう前とする覚悟ですから、阿野さんが言われたとおり、与党の自民党ですら、海上給油の詳細について、どこまで把握していたのか心許ないわけです。いや、自民党も知っていて伏せていたのだとすれば、それは問題なんです。

山口 不思議に思ったのは、遠藤武彦前農水相がトップを務めていた農薬共同組合が補助金を不正受給していた問題を、なぜ官庁が知らなかったのかということです。調べてみると、会計検査院は各省との協議によって、調査結果を報告書に掲載しない場合もあること





原口 一博 (はらぐち かずひろ)

東京大卒。松下政経塾入塾生。元青民連長。元衆議院、民進党「友の会」副代表。2004年4月、自民党入り。現職。

が分かりました。私はいま、民主党の臨時出陣として、日本版G/O（米会計検査院）を参議院に置いて、行政監視機能を国会に持たせることを考えています。官僚委任を社会主義のようなものが、しっかりと押除かれて初めて、本筋の意味での民主主義の地平に立てるのではないかと考えています。松原 このような建議会に出座されるくらいですから、今日おこしの自民党のお二人は別にして（笑）、自民党全体の体質としては、従来あった官僚機構とともに何十年とやってきたわけ

ですから、ドラスティックな変革をするのは難しいのではないでしょう。参院の与野党連中は政権交代の一部であって、真正政権交代ができた、与党・自民党の権力がずっと続いてきたことに国民が風穴をあけたんです。われわれは、いかに今までの政治が腐れ合い、国民不在の中で行われてきたかを明らかにする。それが国民にも明らかになる。そういう局面に来ていると思います。有馬 所詮、国民が情報を把握知り尽くすことはできないし、偏った情報で

判断されるのも危険です。だから、われわれが選んだ議員が決めればいいという感覚が、長い間、国民の中にあっただと思います。そのあたり、自民党のお二人は、どう受け止めますか。佐藤田 いや、お二人がおっしゃる通りで、私も与党にいたが、情報開示を求めても得られない事実が、防衛問題に限らずたくさんあるんですよ。

現実的には、自民党は、守勢のままで解散・総選挙に突入するしかないし、総選挙後のシミュレーションもまばらしかないわけです。総選挙で自民が勝っておじれたままでもいいのか、民主党が勝利して政権交代するのか、または政界再編です。おじれたことによるプラスはあります。そこは河野さんと一語です。ただ、せっかくのわれわれ国会が、政治とカネの問題で、互いの批判から議論をスタートさせたのは、不毛でした。自民党の非は認めます。しかし、元自民党で幹事長を務め、当時の最大派閥・田中派の重鎮が

民主党のトップなわけですよ。他の幹事の方でも元自民党員でいろいろしゃる。総代会にしかならないじゃないですか。

ねじれ状況下の要件

有馬 そうすると自民・民主の立ち位置は、要はそう変わらない。河野さんが国会の要職を例えて言われますが、左右でなく前後にこそ対立軸があるという事です。前方の席に座るのは若手、後方は長老議員ですが。

河野 左右より前後のほうが、若手方に落着きがありますね。ねじれのお陰で、



河野 太郎 (このの たろ) 50

元ジョージタウン大学。憲法に詳しいなど
に評価。20年に初当選。父は河野洋平前通
政大臣。出典：毎日（2009/1/15）25、26頁

先ほど僕に出た情報開示を告め、いろいろ修正されるのではという期待がある。自民、自派、民主の両党の上層部がガチンコで対立しちゃうと、物事が一歩も進まなくなる懸念もあります。

佐藤 国会の現状を前後の対立と表現したほうが、国民に伝わるし、真実にゃないか。河野さんの言うとおり、ねじれていることで、制度の国際政治や国内政治の問題について、方向性が定まらないゾーンが出てくる。

有馬 今後10年間で世代交代が進んだら、今度はまた左右の対立軸が出てく

る可能性があるんですか。

河野 次に左右が対立する時代が来たとして、その頃はずいぶん人が入れ替わって、整理された議論ができていいると思います。なんと言っても、いまは私より右寄りの松原さんが民主党にいた時代ですから（笑）。

松原 これは、ある学者の言葉ですが、「相手の説得に説得される勇気」こそが民主主義の原動力だそうです。従来、双方とも相手方の主張はとにかくすべてダメだとファイティングポーズを取ってききましたが、それでは国会で議論する意味がないんです。ねじれ国会では、どこかで相互に妥協点を模らない限り相討ちです。

彼ら若手政治家は優秀な人材ばかりで、与野党と民主意識で、互いがそのやり方を進めば、支援そのものが進まない。それは双方、そして国民にとってマイナスなわけで、ねじれ状態は、本来の民主主義的な、議会的な議論ができる可能性を持っているんです。



松原 仁 (まつばら・じん)

衆議院大庫。松下政経塾と関係。東京新聞を
と創刊。00年に民主党。行政刷新本部副
大臣。自派を離れ（比例代表）。以後

有馬 そこで出てきたのが大連立とい
うシナリオです。衆院は解散がないの
で、両党のガチンコが3年、いや、今
回の選挙結果を踏まえれば6年は続く
でしょう。そんなに与野党の対立に巻
き込まれていたら、国民はたまらない。
後藤 基本政策、基本理念において
ある程度一致した人たちがひとつの受
け皿をつくる。この受け皿がキャスチ
ングボードを握り、場合によっては
連立を組んで、国会運営においてもつ
とも良識的な立場で発言していく。こ
れがあるべき姿だと思います。聞くと、

両党のいまの構成メンバーを見ると、
民主党の中心には、当時自民党を離脱
した新党さまがけ出身の方々がいる。
自民党の幹団の中には新連立を継続し
た人がいます。もはや両党とも、どの
議員がどういった集団に属し、どのよ
うな政策を持っていたのかなんて、現
場にいる私ですらワケがわからない。
だから衆議院を抜けたんです（笑）。
国民は、「既存の政党の他に新派族
がないのか」と感じています。率直に
言わせてもらおうと、両党をこんな状態
にしてしまった古い世代にいまさら大

連立なんて言われたくないし、言っ
てはくれない。大連立というが、政界再
編があり得るとすれば、今度こそ、政
策、理念で結びつかねば。

河野 政党というスタリオンがかか
ると、国会の採決で勝つか負けるかとい
う話にしかならないからね。おじれ国
会ではその拘束力が少し弱くなった気
はしています。党からはぐれることの
多い横や後藤田さんからすると、おじ
れているほうがやり易いのかな（笑）。
ただ、おじれ状態をすべて認めるわ
けではないんです。おじれていても守
るべき条件は、二つあると思います。
まず、外交、防衛政策が動かなくなる
のはまずい。おじれに限らず、政権が
交代したからという理由でも外交政策
がコロコロ変わってはならない。輸出
の問題にしても、横は民主党の大部分
は、海上保安活動にそんなに抵抗がな
い。むしろ続けるべきだと思っている
人が多いいんじゃないかと聞いていま
す。それなのに、自民vs民主の構図で

左右に振れているのは、何らかの形で
是正しないといえずい。

原口 河野さんに全面的に賛成です。
安全保障は、右、左の対立で揺らさず
きしめない。国家がディバイド・アン
ド・ルール、分割統治されることは絶
対にあつてはならない。安全保障の分
野では共通の認識、共通の情報、共通
の戦略目標、これをつくりあげること
を私たちが国会議員がやるべきです。

私は一國平和主義を取りません。平
和だと叫んでいれば平和が守れるとは
思っています。ですがこのらういふ年

の世界の状況を見てみると、アメリカ
が世界で唯一の警察官だと自負し、そ
の行動によって何が起きたのか。その
矛盾の時期に來ています。アメリカ
の二國平和維持主義、日本の一國平
和主義、このどちらにも私たちはノー
と言わなければいけない。

河野 二つ目は、例えば憲法学者を援に
しても、ばらまき台帳になつてしまふ
可能性がある。おじれているときの際
し合ひの際には必ず、これだけの財政
支出をするのなら、これをこれだけ切
り詰めるというのを、セアトで出して

議論をしなければいけない。これは税
制改正でも同じことです。これだけ歳
入をするのなら、これだけ財政支出を
用るといった「入りと出」をセアトで
議論しないと、ばらまきのパフォーマンスに走つて財政赤字が質たる方式に
増えつてしまふ。

有馬 総務、政権交代があつたとして
も、外交、防衛など機軸の政策は一貫
しなければいけないと、では、民主党
が政権を取った場合に、外交、防衛政
策については現在の自民党の方針と同
じということになるんでしょうか。

原口 基本理念を合わせる必要が必
要です。私の基本理念は、人間の安全保
障です。憲法やサンフランシスコ条
約の使用を認める人と、同じ安全保障
の枠組みに立てない。そういうスタンス
です。私は松原さんと一緒に防衛費
増に賛加していますが、人権問題に対
する意識が一致しているからです。人
権問題に対する姿勢が大きく異なつ
て、安全保障では考えが一筋なってい

後藤田 正純 (ことうだ まさあき)

東京大学。二重橋通りにて野党執行部。00年
に初当選。第二次小泉内閣で内閣府副
長官。衆議院。出馬1回（岐阜2区）。200

うことはあり得ない。

政策の上にある政局

有馬　ねじれを生んだ参院選ですが、その争点を憲法改正に設定したのは、他ならぬ安倍さんです。国民の人権を保障する最高法規として、自民・民主双方が、集団的自衛権の問題などで解釈・足並みが揃わないことを理解したうえで改憲議論を進めてきました。7年もの長きにわたってです。それほど重い課題でしたが、郵政選挙のときの郵政民営化と同様、ワンイシューで、これまで同じ考えで集まっていたと思われた人たちを分断し、選挙を政局に利用してしまった。

松原　小選挙区制が導入されて変わったのは、民主党よりも自民党のほうじゃないかな。党中央の権力が強くなって党議拘束が絶対的なものになった。さらに、トップが相手との違い、それもほんの些細な違いを針小棒大に宣伝する戦略に出て、二者択一の選挙戦を

展開する。ほぼ同じ意見なのにですよ。

選挙が近づくと、各政党のエゴが剥き出しになるのは仕方ありません。

ですが、安倍さんが憲法改正を選挙の争点にしたのは本当にとんでもなかった。まさに禁じ手です。憲法改正について、両党が長い時間をかけて煮詰めてきたテーマなのに、まさに選挙のためにぶち上げたテーマであるかのよう

うに問題を矮小化しました。

河野　実は、安倍さんが憲法改正を言い出したとき、自民党の右寄りの人ほど、本気ではないようでした。現実を考えると、両院の3分の2の賛成で発議し国民投票という流れでしょう。本来に改正部分のポイントを絞らないと与野党の合意なんてできっこない。それなのに、党内右派には前文から何か変えたい部分が山ほどあって、現実的ではありませんでした。

原口　ねじれによって、政と官の関係は変わりつつあります。だが同時に、政党内の関係も変わらなければいけな

司会／有馬 晴海（ありま はるみ）

長崎県出身。国会議員秘書などを経て、96年に政治評論家として独立。情報番組「ピンポン」（TBS系）他、多数出演。49歳



い。親方一人が右向け右と号令をかけて、みんなが同じ方向に向いているとしたら、選挙向けのアピールでする議論が横行することになるでしょう。

松原さんの言うとおり、結局、党議拘束の問題なんです。議院内閣制ですから、自ずと限界はあるのですが、それにしても「国会サラリーマン」のよ

で、受任を避けてでも一緒に議員立法をしないと、国会が頓とられない。

後藤田 その状況が望ましいことには同意するのですが、有権者の立場に立ってみれば、「政党政治なのに、同じ政党の中に右から左までいていいのか」ということにもなりかねません。

しかし、それを避けても、安倍さん、小沢さんといったトップが作り出す政治によって各党の政策決定がなされる事態が不幸なのは事実です。そろそろ我々の世代が立ち上がらないと、年金問題にしても、年金目的の消費税引き上げ案で国費が寄り添った時期もあったのに、いまは制度論に踏み込ん

で話し合ってさえないない。

政治家個人の信念で動くのは難しいことです。今回のテロ特例法などいい例です。民主党は海上阻止行動に賛同する船への総額にも反対の立場を表明し、対象として小沢一郎さんが月刊誌でお墨書になったとおり、アフガニスタンへの国際治安支援部隊（「さんさん」）への参加を望んだ。「さんさん」への風向きが悪くなると、今度は地域復興支援活動（「F&D」）に参加すると言いだした。私も新聞に所属していましたが矛盾を指摘し込まずにはならない気持ちは分かりますが、一貫しているとは思えないトップの言論に、本気でケツ

をまくれる議員がどれだけですわ。

河野 マニフェストに明記されている法案については、ある程度、党に拘束されるのは仕方がないと思えますよ。

郵政民営化の場合は、小泉純一郎という政治家が20年間におたって言い続けているのを、みんな知っていてあの人を総理に選んだのです。極めてイレギュラーなケースですが、反対議員の除名は成立すると思わんです。

いまの自民党と民主党では、基本理念において一致している部分がかなりありますが、それに比べて、党内の意見は解れることが多い。夫婦別姓、臓器移植、離婚後30日以内に生まれ

た子は前の夫の子と確定するという民法772条の改正といった良識や常識、心の問題については愛護拘束をかけるという制度があつていいと思うし、そちらのほうは民意を汲み取れると思うんです。夫婦別姓は深刻な社会問題だし、私も父に生後肝移植しましたが、臓器移植の問題なんて10年間で3万人も死んでいるのに、審判が始まりもしない。党内でまともでないのが原因なんです。

有馬 しかしですよ、後藤さんが例に出した「さあ」の一件では、小沢さんが党内の慎重な意見に対して「考えが違ふヤツは説いて行くしかない」と発言し、民主党政調員からも「また、『破し屋』の病気が再発した」との声が上がりました。こうした「陣リイ」があつても、信念に基づいた発言ができると言えるんですか。

松原 だから、河野さんが言ったとおり、マニフェストは有権者との公約ですから、党の方針に従う。でも他の部

分については、ある程度、各議員の信念に任せる。このスタンスが正しいと思うんです。政策より政局を上位に置くような政治があつてはいけませんよ。有馬 ねじれてみて思い出したのですが、後藤くん一院制を唱える議員が民主党にもいました。彼らは、衆院のカーボンコピーでは時間も無駄だし、コストも削減できるという主張でしたが、河野 おじれがないのを当たり商とするほうがイレギュラーなのであつて、二院制を取っている以上、ねじれるわけですよ。衆院自民党は党内における影響力の拡大には余力がなかったですが、おじれを想定した野党とのルールづくりはしてこなかったんですね。

松原 衆院の会派と参院の会派が同じというのはおかしな話ですね。本来、二院制において、片方は会派がない委員会を維持されていたんです。地方議会も然りで、ほぼ全国で自民党、公明党、民主党……と固く同じ枠組みになっている。だから、中央の政治状況が、地

方政治と連動してしまふ。

後藤 衆院は衆院のカーボンコピーと言われるが、昔は違いました。参議院はほとんどが無所属だったはずですよ。

権力に真面目が

有馬 少し話を政界異議の実現性に戻しますが、小沢さんは、「憲法でも過半数を取りさえすれば、すべての政策を実施できると考えているように見えます。そうなるも、党派を超えた理念での結びつき」という話は論議事になる。その点、むしろ民主党のほうに限界があるんじゃないですか。

原田 いや、そうは思いません。民主党にとってのエポックメイキングな出来事は、1年前の衆院補欠選挙でした。神奈川と大阪で民主党は全敗しましたが、あのときに僕は、小沢さんから新たな文化をもらった。選挙の基盤は、有権者の生活、いわゆる家から上がっているかどうかを一つ一つ調べるということの基本です。これまで

の民主党は権力に対する懐疑がなすすぎました。小沢さんを「政界人間」とする見方もあるかもしれませんが、政策を実現するための積極な信念がその見せている部分が大なんです。

後藤田 3月に津島清を抜け無所属となりましたが、無所属に所属していた頃、同じことを言ったんですよ。「権力に真面目であるべきだ」と、これは「原教日記」にある言葉なんです。基本政策、基本理念を実現させるためには権力を取らなければダメです。勝てもしない総選挙に臨んで出馬するなんてことは、権力に不真面目な態度だと、総原 権力という言葉に、日本人はよ

いイメージを持たないけれど、権力に真面目であるということは、政治にダイナミズムを持たせるための大前提ですよ。権力に対して、ひたむきに真面目であるということは、結果として、政治や行政を進化させる最大の力になります。小沢さんは権力に対して真面目です。だから今回、小沢さんの指揮

下で参院において権力の交代が実現できた。このまま総選挙でわれわれが勝利し、自民党も野党でも1年半か2年、下野させることが果たせられれば、本筋の意味で官僚主導の制度を変えられる。いま富士山の八合目まで来たと感じています。小沢さんは、すべてを政

権交代の一点に集中させている。政権交代の時々の意気は大きく、正しい。小沢さんの方向付けは正しいと思います。有馬 では、民主党が総選挙で勝利して政権をとったら、政界再編は進みますか。小沢さんは以前から、選挙制度ではなく政策で分かれる。ガラガラポン。を叫んでいますよね。

原口 民主党が選挙で勝って政権交代がなされた場合の仕方が、政界再編が起こりやすいと思います。過去、政界再編の起爆剤になろうと競争で集まったのですが、政界全体を相対的に見渡せるかという点で、選挙に強い人とそうでない人では違いました。自民党公

認という強力なバックアップ運動を、なかなか袖にはできないでしょう。

有馬 しかし、いまや自民党の支持組織も腐石なものではなくなった。建設業界は離れ、郵政関係は追い出した。

佐藤 国 そのとおりです。しかし、自民党の若手の意識にも問題がある。小泉チルドレンは、「小泉改革を徹底する」と叫んで存在をアピールしていますが、まったく現実を把握していない。なにせ、彼らの大半は比例で当選したものだから、選挙区を持っていない。だから国民の声なんて聞こえないし、知るよしもない。貴、民主党の1年生議員が街頭で演説しているのを聞いて、とにかく自党の批判としてウヤウヤいのかという感嘆を抱きました。が、いまや自民党のほうに、そうしたタイプの若手議員が多くなりました。

ルールづくりと国益

有馬 先ほど外交の話が出ましたが、政界再編の先に、国際的な競争力を時

った力強い日本の姿があるということですね。政党が違っても、国益は一致してもらわないと困りますからね。

原口 私が、先端的だと思っていることは、世界に対する情報発信量の少なさです。十数年前、世界の10大銀行(資産規模順)のうち過半数を日本の銀行が占めた時代もありましたが、ルール設定という境域にさらされました。

自己資本比率に関するBISの規制が定められ、不良債権処理の進まない銀行は破綻され姿を消し、貸し渋りなどが深刻化しました。オリンピックで日本が金メダルを取ると、その競技の国際ルールがいきなり変えられるのと同じく似ています。バブル崩壊の後遺症が長引いて、ルール設定における国際競争で負けたのです。そして、いまルール設定が行われている場に、日本の政府が機能していると言えるのでしょうか。

松原 先日、外資系のある有名証券会社の人と話したんですが、彼は、日本の世界では自分たちがルールをつくる

と堂々と言っているんです。ルールをつくって相手に納得させる。相手がそのルールの中で頑張って追いついてきたら、今度は「そのルールはもう古い」とばかりに、次から次へと新しいルールをつくる。「そうやって、われわれは儲けているんですよ」と言われたのには参りましたね。

大事なことは、外資系の彼らはその国の政治と組んで事を進めている点です。「ルールを変える」手法は、国際競争社会における最大の戦略です。ここを疎かにすれば、国益を甚だしく損ねます。欧米の企業は新ルールを持つ出して、その正当性を訴えて相手を屈伏させ、知財利益を回収するんです。

国益というのは、物質的な面だけではない。精神的な面益もあります。ルール設定で後手に回れば、諸外国から理不尽なクレームをつけられたときに、毅然と言い返すことができなくなる。それでは民間が勝って外国で活動できなくなるのです。拉致問題

も議論の実行犯が議だとか、被害者が戻ってくるかという議論だけではなく、精神的な面益に絡む問題だから、言葉しなければいけないんです。

後藤田 アメリカを中心とするファンDが、日本の企業を襲って切り売りし、地域雇用を壊るが社会問題になっている。国際競争力調査会の事務局長を務めています。この問題が予算委員会でも野党でも議論されていません。あと数年で政界を去る人が真剣に考えるはずありませんが。

河野 法務部大の似を始めたとき、G8の法務大臣サミットがあったのですが、他国の大臣連中は順なしみのよう

で、「やあやあ」と挨拶しているんです。3日くらいしてようやく腹づなまできたと思っても、次のサミットのとときには副大臣は交代しているわけです。経緯の論議を中心とした内向きの人事ばかりで、まったく国際社会に対応していないことが分かります。

後藤田 外交は「お久しぶり」という挨拶であるべきなのに、日本は「初めまして」からですもんね。

河野 国際会議に出席できないのは、大臣は国会に必ずいるよう野党から言われるからでもあります。自民党が自己規制して副大臣まで全員予算委員会には座っていると指令を出すのも原

因です。

有馬 さて、これから年末にかけて、「ねじれて法案が通らない。だから解散」ということにはなりませんか。

河野 おじれたから解散というのは意味がない話です。二院制だから、ねじれているのは当たり前です。

原口 僕もそう思います。

有馬 そうは言っても、新デモ特措法が今国会で成立しなければ解散という見方を、メディアはしています。外務省一厚労働も参議院での生動ぶりを想定して、年内の解散に言及しました。

後藤田 安倍さんの失政、そして政策の転換。自民党は福田さんの言うとお

り資本の陣です。しかし、すぐに解散ということではない。もはや、ホームランを打つ政治を志向するべきじゃない。内野安打でも、すつかりしないヒットでも、ヒットはヒットで、そういうことを積み重ねていくしかないんです。パンチを振しながらも、お互いに協調できることは協調して、それで基本的に国民の皆さんに判断してもらえばいいと、僕は思っています。

自民党内で、私どもは確かに民主派でした。しかし、福田政権の誕生で、ようやく風向きが変わってきました。思ったことをそのまま発言してきたわれわれですが、その意見に党が近付いてきたと感しています。もう僕は、朝日る道を行く以外ないですから。

自民でも民主でもなく

福田 福田さんが、票面で声で「一週に話し合いましうね」とおっしゃるけれど、僕は、やはり憲法改正について事前に話し合うというのは国際協力

です。国民はそれを望んでいるわけではない。二週も早く解散総選挙をして、民意を問うことが大事だと思います。

福田 私も原口議員も松下政経塾出身ですが、初めて選挙に出るときに、松下幸之助さんから「真剣にやうなはれ」と言われました。松下さんは「真剣」という言葉が好きでした。政治家個人個人が、党議拘束の通りに投票するのは楽なんです。考えなくていいし、足の指肉を使って立ったり座ったりするだけでいい。「真剣」さが欠けているんだと思います。おじれ次郎は、世論が解散総選挙をして一気に政権交代を求めている、と受け止めています。

河野 これは、最後に使えておかないてはいけません。いまの国会は超党派決することが多いんですが、あれ、実は私も教を教えていないんです。本会議の前に議員のところへ行って、わが党は賛成ですと言ったものだけが記録に残る。民主主義が極めて形骸化しているんです。せいかくおじれの状況に

なっただけから、今後、国会の議決は数字を正確に記録して、その結果を世の中に見てもらって、選挙で選んでいただきたい。国会議員一人一人がきっちり勉強をしていく時代になってきたと思いますね。

福田 貴論が求めているのは、既存の自民党でも民主党でもない。現実感宣として、たぶんお二人は分かっていると思う。それこそ権力に対して真剣になるのであれば、この世論を視野に入れないで、国民から見捨てられまう。政党というより、個々人の基本理念、基本政策をしっかりと立てることが、われわれには必要です。そういう人たちが自然に、世間、政党を離れて一線になるのは必然です。そろそろ機が熟しているんじゃないかと、僕は思っています。

福田 福田さんと河野さんには、ぜひ民主党で頑張っていただきたいという気持ち。やはり既存の政党の枠組みが障害になっているように感じますね。